

給食費について（三次答申案）

1 給食費の基本的な考え方

学校給食法（昭和29年6月3日法律第160号）は、学校給食が児童及び生徒の心身の健全な発達に資するものであり、かつ、児童及び生徒の食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすものであることに鑑み、学校給食の普及充実及び学校における食育の推進を図ることを法律の目的としている。

この法律の主旨から、学校給食は、児童生徒への単なる食事の提供ではなく、その提供による児童生徒の健康の増進及び体位の向上を図ることに加え、食に関する指導を効果的に進めるための重要な教材であることに留意すべきである。

そのため、給食費の算定においては、「安全・安心でおいしい給食」といった学校給食の充実の視点に加えて、「日本の伝統的な食文化や世界の食文化を知る」や「地場産物や国産食材の活用」といった食育の視点を取り入れた献立に基づき、適正な給食費を算定すべきである。

2 標準献立の見直し

基本的な考え方に基づき、中学校全員給食後に実現する「小中学校一貫の学校給食を活用した食育」を念頭に置いた上で、これまで給食費算定に使用してきた標準献立を、食育の視点で以下のとおり見直すこととした。

- （1）地場野菜の使用量増加の観点から、地場野菜を多く使用した「まち☆ベジ給食」を年2回実施。また、地場農産物加工品を献立に反映。

まちベジ給食：生産履歴等の管理をして生産した町田産農産物「まち☆ベジ」を使用した小学校給食

- （2）食文化への理解促進の観点から、行事食、外国の料理及び郷土料理の提供回数を増加
- （3）食塩摂取や和食の食べ方の観点から、味付きご飯の回数を見直し、献立に反映

3 現行の給食費の状況及び食材料費の上昇

現在の給食費は、消費税増税（5%から8%）を背景として見直しが行われ、小学校・中学校ともに2014年度から適用されている。2014年度から現在に至るまで、食材料価格は上昇を続けており、特に、2022年度及び2023年度は、エネルギー価格の上昇や円安を背景として、食材料価格は著しい上昇（消費者物価指数2020年比：15.1%（2024年1月時点））となっている。この2022年度及び2023年度においては、国の補助金を活用するとともに、学校栄養職員が献立や食材調達を工夫することで、食材価格上昇分を給食費として保護者に転嫁することなく、給食運営を行ってきた状況にある。

4 給食費の改定額及び改定時期

給食費の改定額の算出に当たっては、給食で使用する食材の価格を、2012年度（現行の給食費を算出するに当たって基準とした年度）と2022年度を比較する

とともに、２０２２年度から２０２３年度において学校給食で使用している食材価格の平均値を、食育の視点で見直した標準献立に当てはめることで、以下の給食費額を算出した。この給食費額を改定額とされたい。

給食費改定時期については、保護者や学校への周知期間を十分に確保するとともに、現在の公会計システムの改修や事務手続きなども考慮して、適切な時期に実施すべきである。

【給食費改定額】

	現行（２０２３年度）	改定後（２０２４年度以降）	
	１食単価	１食単価	
小学校低学年	230 円	245 円	(+15 円)
小学校中学年	245 円	275 円	(+30 円)
小学校高学年	265 円	300 円	(+35 円)
中学生	310 円	330 円	(+20 円)
小学校教職員	265 円	300 円	(+35 円)
中学校教職員	310 円	330 円	(+20 円)

※ 年間給食費見込額（年間平均給食回数である１８７回に給食単価を乗じた額）は、小学校低学年：45,815 円（+2,805 円）、小学校中学年：51,425 円（+5,610 円）、小学校高学年：56,100 円（+6,545 円）、中学生：61,710 円（+3,740 円）、小学校教職員：56,100 円（+6,545 円）、中学校教職員：61,710 円（+3,740 円）

５ 留意事項

給食費額改定に当たっては、保護者（子育て世帯）の負担軽減及び各学校の給食運営の観点から、以下の点について留意すること。

- （１）現下の物価高騰の影響によって、保護者（子育て世帯）の負担が増加しているため、給食費の増加分へ国や都の補助を活用するなど、保護者負担軽減策を検討すること。
- （２）東京都区部など、他自治体において、学校給食費の無償化が進んでいる。物価高騰を背景として、家計における食費や教育費など、特に多子世帯の負担が増加しており、子育て支援の観点から、まずは多子世帯の学校給食費無償化を検討すること。併せて、国による学校給食費の無償化について、その動向を注視すること。
- （３）前回の給食費額改定から約 10 年が経過している。給食費額改定までの期間が長期化することは、保護者（子育て世帯）に急激な負担を求める可能性がある。今後も食材価格の上昇は予想されるため、消費者物価指数を確認するなど、今回の改定額がその年度において適正か否かを毎年度評価すること。

また、毎年度実施する給食費額の評価については、概ね３年に一度を目安に、当協議会に報告すること。

- （４）今後の更なる食材価格の上昇に備え、価格変動が比較的少ない調味料や加工食品などの食材を市で一括調達するなど、食材調達の効率化を図ること。

併せて、地場農産物は市場価格よりも安価な作物が多くあることから、食材費軽減の観点からも地産地消をより一層推進すること。

第13期 第8回町田市学校給食問題協議会 会議録要旨

日 時	2023年12月22日(金) 14時00分～15時40分
場 所	市庁舎3階 第3-1会議室
出 席 者	<委員>敬称略 山田正子、柳田拓史、藤田裕一、大川敏明、貝原俊明、 金田和子、堀切由貴、福住希美、木村暢恵、石黒佐智子、 進藤悠、野村弥生 <事務局> 保健給食課長、保健給食課職員 7名
傍聴人数	1名

■会議内容

1. 議題

給食費について

(1) 資料説明

(2) 協議

2. 次回の日程

3. その他

■配布資料

- 1 資料1 二次答申（学校給食における食育の推進について）
- 2 資料2 『学校給食費額等に関する調査』調査報告書
- 3 資料3 東京都内自治体における学校給食費無償化の状況について
- 4 資料4 学校給食費の無償化に向けた国の動向について
- 5 資料5 - 1 食育に基づく標準献立の見直しについて
- 6 資料5 - 2 町田市学校給食標準献立（改訂版）
- 7 資料6 標準献立見直し等に基づく給食単価について
- 8 参考資料1 二次答申書（修正箇所反映版）
- 9 参考資料2 第7回会議録

■協議

「給食費について」

【会長】

本日の議題は「給食費について」ですが、まず初めに、本協議会に諮問された3つの事項のうち、「学校給食における食育の推進」について答申いたしましたので、事務局よりご報

告いただき、その後、「給食費について」の議論を再開いたします。それでは、事務局から二次答申について報告をお願いします。

【事務局】

＜資料1の説明＞

二次答申(学校給食における食育の推進について)について、会長と調整して文言表現について修正をさせていただきました。参考資料1が修正箇所を見え消しで表示したものですのでご覧ください。赤字が修正した箇所です。前段の文章で、「成長期にある子どもたちが生涯にわたって健やかに生きるための基礎を培う食育を通じて、食生活をコントロールしていく、食の自己管理能力を身に付ける必要がある」というように表現を整理させていただきました。続いて、(1)の2段落目ですが、「食育プログラム」と「食育のプログラム」が混在していたので、「食育プログラム」に統一させていただきました。あわせて、最後の文章を「記載する」としていたが「盛り込む」という表現の方が適切であると考え変更しました。裏面をご覧ください。(2)の2行目の「地域」という言葉が少し曖昧な表現でしたので、「食育に取り組む企業・大学など、地域の様々な主体」に変更しております。続いて、(3)については、軽微な文言修正をさせていただいております。(4)については変更ございません。最後に、(5)について、タイトルを「食育実施主体の負担軽減」から「教育委員会によるサポート及び学校間の協力体制」に変更しました。その上で、内容についても教育委員会のサポート及び学校間が協力して食育を推進するという表現にして、その結果として負担軽減を図るという形で文言修正させていただきました。二次答申に関する報告は以上です。

【会長】

ご報告ありがとうございました。2025年度に中学校給食センターの整備が完了し、小学校・中学校の9年間の義務教育期間において、統一的な給食提供が実現しますので、これまで実施してきた食育の課題を踏まえ、改めて、小中一貫の食育に取り組んでいただきたいと思います。小中一貫の食育を推進していくにあたっては、より一層学校給食の充実はもちろんのこと、答申で示した点に考慮した上で、「生きた教材である学校給食を活用した食育」を実施していただきたいと思います。

それでは、当協議会に諮問された議題について協議に入ります。今回の協議は、「給食費について」です。まずは、事務局から資料の説明をお願いいたします。

【事務局】

＜資料2の説明＞

第5回の協議会において、他自治体の給食費改定の動向や国の無償化の動きを把握する必要があるとして給食費改定の協議を先送りさせていただいていたが、今回給食費改定や無償化の状況を多摩地域の各市に調査を行い、その結果をとりまとめたものが資料2の報告書です。今回の調査は公表を前提として調査ではないため、各自治体が公表している情報以外は、自治体名を伏せて表記している。それぞれのページで自治体名をA市、B市

を表記しているが、ページ間でA市、B市が同じ市を示すわけではないことにご留意ください。

2ページをご覧ください。多摩26市の給食費無償化の状況を調べたものを記載しております。1の給食費の無償化について、給食費の無償化を実施しているまたは実施を予定していると回答したのは3市、検討中が3市でした。予定ありとした団体は、問1-1に記載したとおり、狛江市、武蔵村山市、府中市です。狛江市は、第三子無償化を市の予算で行っている状況でした。武蔵村山市は、国の交付金を活用して、期間限定で令和5年6月1日から9月30日までの間の給食費を無償化している状況でした。府中市は、令和5年10月1日から令和6年3月31日までの期間を市単独の予算で無償化するという状況でした。続いて、検討中とした市について、こちらも3市ございました。このうち小平市は、令和6年1月から第三子無償化を表明しています。このことについては、資料3に記載しているので後程ご説明いたします。続いて3ページは給食費の無償化に関する懸念事項をまとめたものになります。協議とはあまり関係がないので、後程ご参照いただければと思います。

4ページ目の「令和5年度における給食費の改定について」は、保護者の方に負担を求めている経費の区分を確認したものです。全ての市で、食材料費のみを負担を求めているという結果になりました。5ページ目は、今年度食材料費としてどのくらいの費用を要しているかを集計したものです。金額の欄には、1食あたりの小学校中学年の金額を記載しております。町田市については保護者の方に負担を求めている給食費は小学校中学年245円ですが、各学校の栄養職員の献立の工夫を行い、さらに国の補助金の活用をして食材料費としては264円かかっている状況です。順位は、26市中15番目です。続いて中学校の状況を6ページ目に記載しています。小学校と同様に、栄養士が創意工夫を行い、且つ国の補助を活用して333円で中学校給食を運営している状況です。7ページ目、「学校給食に要する経費のうち保護者に負担を求める必要がある経費の積算方法」については、様々な回答がありました。

続いて8ページをご覧ください。現在の条例や規則で定められた給食費の額を集計した表になります。先ほど申し上げたとおり、町田市は小学校中学年で245円と定めており、16番目にあたります。同様に9ページ目は、中学生の給食費を表記しております。町田市では中学生は310円と定めております。

10ページをご覧ください。現時点で国からの補助を受けている金額を表した表です。先ほどご説明したとおり、町田市の小学校中学年においては約19円の国の補助を受けて給食を提供しています。中学生については、23.6円の補助を受けております。

続いて12ページをご覧ください。こちらは今年度中に保護者負担額の改定を行う予定があるかまたは行ったかを調査したものです。改定を行っていたのは1市で、改定により値上げを行っているものの、値上げ分は公費負担としておりました。

続いて13ページは令和6年度に改定を予定しているか確認したものです。予定有とした市は6市、検討中は7市、無は13市でした。町田市は現在協議会の中で検討をしておりますので、検討中に含まれております。予定有とした6市の改定時期は全て令和6年4月となっております。値上げ分の負担は検討中のところもありますが、保護者負担ではなく、市の負担

で実施するところが多いです。

最後に14、15ページをご覧ください。こちらは例規等で定めている給食費と、食材料費で実際に支出している金額を比較した表です。14ページの実質的な金額の表の20番目に、町田市は小学校中学年で264円と書かれていますが、これは先ほどお示したとおり例規上の金額245円に19円を足した金額となっております。この金額は栄養職員による献立の工夫や、食材調達の工夫は含まれておりません。そのため、本来的に必要な食材費額は本協議会でお示ししている標準献立で算出した金額が適正であると考えております。26市の平均金額は、小学校中学年で274.4円という結果でございました。同様に15ページに中学生の平均金額を記載しておりますが、331円という結果になりました。資料2の説明は以上です。

<資料3の説明>

この資料は東京23区及び多摩26市において学校給食費の無償化について、現在町田市で把握している状況を示したものです。冒頭部分に記載しているとおり、12月5日に東京都知事が東京都内区市町村において学校給食費を無償化した場合、その経費に対する支援を実施する旨を表明しました。この支援の詳細はまだ示されておませんが、今後この支援制度を活用して学校給食費の無償化に取り組む区市町村が増加する可能性があります。

下の表の説明をさせていただきます。まず東京23区については、無償化がかなり進んでいる状況です。第二子以降の児童生徒の給食費無償化を行っているのが、新宿区、練馬区、現在全く無償化を実施していないのが渋谷区です。この3区以外は全児童生徒を対象に給食費無償化を行っている状況です。渋谷区と新宿区については、一部報道による情報ですが、2024年度4月から全児童生徒の給食費を無償化にする予定であると確認しています。

続いて多摩26市の表をご覧ください。2023年10月から府中市が全児童生徒を対象に給食費を無償化している状況です。狛江市は、2023年4月から第三子以降を給食費無償化にしています。武蔵村山市では、2023年6月から9月の期間限定ではございますが、給食費無償化に取り組んでいます。先ほどお話した小平市は、2024年1月から第三子以降の児童生徒の給食費無償化を実施する旨を表明しています。資料3の説明は以上です。

<資料4の説明>

国は、今後の少子化対策の基本となる「こども未来戦略方針」や「こども未来戦略案」の中で、以下のとおり、学校給食費の無償化について触れています。2023年6月13日に国が発表した「こども未来戦略方針」で、「子育て政策の課題」の中に「学校給食費の無償化の実現に向けて、まず、学校給食費の無償化を実施する自治体における取組実態や成果・課題の調査、全国ベースでの学校給食の実態調査を速やかに行い、1年以内にその結果を公表する。その上で、小中学校の給食実施状況の違いや法制面等も含め課題の整理を丁寧に行い、具体的方策を検討する。」と表記されています。この「こども未来戦略方針」に続いて、第8回こども未来戦略会議の中で「こども未来戦略案」が示されております。その中に

も資料記載のとおり、「こども未来戦略方針」とほぼ同容の表現が盛り込まれています。それ以上の国の動向は確認できていない状況です。資料4の説明は以上です。

<資料5-1の説明>

当協議会から学校給食における食育の推進について、「小中一貫の食育を推進していくにあたっては、より一層の学校給食の充実はもちろんのこと、『生きた教材である学校給食を活用した食育』を実践していただきたい」との答申を受けました。この度、食育の推進についての答申を受けるにあたり山田会長から、給食費の算出に使用した標準献立には食育の視点としてどのようなものが盛り込まれているのかというご質問をいただきました。標準献立には季節の食材を使った献立や行事食などが盛り込まれていますが、今後学校給食を活用した食育を推進していくにあたり、改めて食育の視点から標準献立の確認をした結果、以下の点について見直しを行い、献立内容の変更や価格への反映を行いました。

① 見直しにあたって気をつけた点ですが、第5回協議会で標準献立の見直しを行いご提示した際に提供する給食内容について委員の皆さまからいただいたご意見から以下の点について配慮いたしました。魚や果物などの使用回数を減らさないようにしました。旬の食材を使った献立や行事食はしっかりと取り組むことができる献立としております。

② 地場農産物の活用を踏まえた見直しについては、地場農産物を活用した取組として年2回「まち☆ベジ給食」を市内小学校全校で行っております。今後、中学校給食においても「まち☆ベジ」を活用した取組を行っていく予定ですので、「まち☆ベジ給食」で使用している「まち☆ベジ品目」を献立に反映しました。そして、「まち☆ベジ給食」として明確に表記しております。地産地消推進のため活用を進めている地場農産物加工品の白菜キムチやゆずゼリーを献立に反映しております。

③ 各学校で実施されている食育の取組からの見直しですが、標準献立については季節の食材を使った献立や行事食が取り入れられたものになっておりますが、年々食育の視点から色々な食経験ができるように献立を工夫して取り組む学校が増えていきます。そこで、多くの学校で取組が行われているが標準献立には入っていなかった行事食や外国の料理、郷土料理などを献立に反映しました。例として載せた沖縄の日の献立やインドネシア料理、防災の日の献立、重陽の節句、お月見献立、リクエスト献立などを反映しております。以前から行われている行事食の端午の節句については、環境への配慮から竹の皮でもち米を包んでいる中華ちまきをおこわに変えて、その代わりにその他の献立でかつおを使用して端午の節句の習わしを伝えている学校もございました。今後のことも考えて、環境への配慮の視点から献立の見直しをおこなっております。その他にも見直しをしておりますので、詳細は資料5-2でご説明します。

④ 米飯給食の見直しについては、山田会長から標準献立に「味付きご飯」が多い印象があるのご指摘を受け、見直しました。「味付きご飯」は塩分量が多くなりがちなこと、和食の食べ方の基本からも回数が多くなることはあまり好ましくないのではないかというご指摘を受けております。以前、各小学校で実施した米飯給食のうち白飯を提供した回数の調査結果を表に示しました。数値はその月に実施した米飯給食のうち、白飯で提供した割合

(%)となっております。当初提示した標準献立の1年間の平均値は39.8%でした。各小学校の2016年から2018年までの3年分の平均は44.2%でした。この結果から見ても当初提示した標準献立の白飯の割合が低いことが分かりましたので、平均よりも低い月の献立を見直し、その結果平均43.9%になりました。6月は当初提示した標準献立よりも今回の方が低い値になっていますが、これは年間給食実施回数の平均値が187回であるところ、標準献立が186回になっていたため、不足していた1回を6月に追加したことが影響しています。追加した献立がタコライスであり、白いご飯ではあるが味付きご飯の分類になるため、このような結果になりました。裏面には第5回協議会で委員の皆さまからいただいたご意見を掲載しましたので参考にご覧いただければと思います。資料5-1の説明は以上です。

<資料5-2の説明>

先ほど資料5-1で標準献立の見直しについてご説明しましたが、変更点の詳細をご説明します。

まず4月です。太枠の四角で囲ったところが変更点です。また、分かりやすいように主食の枠の中に行事食や季節の給食などの表記を加えました。4月は行事食や季節の給食は取り入れつつ、米飯給食の見直しとして混ぜご飯の回数を減らし、白いご飯の回数を増やしました。2日のアスパラピラフを白いご飯にして、季節の食材であるアスパラはサラダに使用しました。

続いて5月の献立をご覧ください。先ほど説明したとおり2日の行事食の中華ちまきを中華おこわに変更しました。季節の食材ということでかつおを使って季節感を出す工夫をしています。

6月は給食回数を19回から20回に変更しました。16日に沖縄の郷土料理としてタコライスを加えました。

7月は年2回のまち☆ベジ給食の1回目を行っております。町田の地場野菜は各学校で使用しているが、学校間で地場農産物を使用しやすい学校とそうでないところがあります。その中でも年2回、4種類程度の野菜を使えるような献立を立てております。7月はまち☆ベジカレーとして、町田で採れたトマトやジャガイモ、ニンジンなどを使用したカレーを提供しています。5日には、乳酸菌飲料を取り入れています。今回、学期に1回程度、お楽しみとして牛乳ではない飲料を取り入れさせていただきました。9日は、世界の料理としてナシゴレンを取り入れました。7月は世界の料理が2回入っており、ナシゴレンはインドネシア料理です。12日のイエローライスには南アフリカの料理です。こちらは町田市の文化スポーツ振興部から、2020年のオリンピック・パラリンピックを契機に南アフリカとインドネシアのホストタウンに町田市が登録しており、その後も両国と交流をしているので、学校給食でも取組を行っていただきたいと要望があり、南アフリカとインドネシアの料理を取り入れています。

続いて9月の献立をご覧ください。1日は防災の日献立として、アルファ化米を使用しています。アルファ化米にカレーをかけて食べる献立になっております。アルファ化米は、学校の防災備蓄倉庫に期限が迫ったものがあるので活用するために、防災の日に合わせて使用しております。9月は行事食も新しく取り入れています。17日のキムタクごはんは、キム

チとたくあんを混ぜたご飯です。キムチは、町田で採れた白菜を使用して白菜キムチを作り、学校給食に取り入れております。年3回程度町田の白菜で作った白菜キムチを給食で提供できるようにしています。

続いて10月の献立をご覧ください。10月も味付きごはんの回数を見直しました。黒く縁取りをした日が混ぜごはんから白飯に変更したところです。

11月をご覧ください。11月も白飯の回数が少なかったため、12日の献立を白米に変更しています。また、季節の食材を使用した給食を取り入れていきます。

12月の献立をご覧ください。11日に2回目のまち☆ベジ給食を実施しております。12月のまち☆ベジ給食には冬の野菜である大根、白菜、ネギなどを使用しています。また、町田でとれたお米を提供しています。9日は冬至の行事食として、ほうとうにカボチャを入れた献立を提供しています。

続いて1月の献立をご覧ください。1月は学校給食週間があるので、それに合わせた献立や、郷土料理として町田すいとんを取り入れていきます。また、昔の給食として鯨を使用した給食を提供している学校もありますので献立に取り入れました。

2月の献立をご覧ください。2月は行事食として2日は豆を使用した節分ごはん、9日はバレンタインデーがあるのでチョコレート風味の手作りケーキを取り入れた献立にしております。18日はゆずはちみつゼリーを提供しております。町田市内でとれたゆずをゆず果汁にしたものをゼリーに加工した製品です。果物からゆずはちみつゼリーに変更しました。

3月の献立をご覧ください。3月はひなまつりと卒業祝いの献立としての赤飯を行事食として取り入れました。8日はリクエスト献立として、きな粉揚げパンを取り入れました。3月はリクエスト献立を実施する学校が多く、きな粉揚げパンは上位にあがることが多いので、きな粉揚げパンを取り入れました。資料5-2の説明は以上です。

<資料6の説明>

資料5-1でご説明しましたが、食育の答申を受けて標準献立を見直しました。そのため、修正した標準献立の内容で改めて給食単価を算出いたしました。まず、前回提示した給食単価の振り返りをさせていただきます。1. 第5回協議会でお示した給食単価については、第4回協議会でお示した給食単価に2022年度の最新の食材単価を掛け合わせて算出したものでしたが、第5回協議会では、現在の状況などを考慮して見直した内容を反映させてものをお示しいたしました。第5回協議会で示した単価算出にあたり反映させた点については、資料に参考として載せた項目です。単価は表に示したとおり、小学校中学年で280円です。

続いて、2. 標準献立見直し等に基づく給食単価についてです。今回、資料5-2のとおり見直した標準献立から算出した給食費は表のとおりとなっております。小学校中学年の一人分平均単価は274.78円となりました。この金額を端数調整して基準となる単価を275円としました。この基準の275円に小学校低学年は0.9をかけて245円、高学年には1.1をかけて300円、中学生は1.2をかけて330円となります。表面の第5回協議会でお示した表と異なる箇所がございます。小学校の教職員の単価が、前は大人として食べる量は同じと

いう理由で中学校の教職員と同じ単価に設定しておりました。しかし、小学校での給食提供において教職員分だけパンや魚のグラムを変えて注文したり、調理をしたりするのが難しい状況にあり、高学年と同じ量で提供するため、給食費についても小学校高学年と同じ設定にしております。今回見直した標準献立から算出した給食単価については、前回お示した給食単価よりも少し下がっております。資料2の14ページにある多摩26市の実質的な金額の平均金額は、274.4円となっております。この額と比較して、275円としても良いのではないかと事務局で判断し、この金額を給食費改定額として新たに提案をしたいと思います。説明は以上です。

【会長】

沢山の資料を作成していただき、ありがとうございました。念のための確認ですが、第5回協議会では280円で案を示していただいて、今回は275円でお示ししていただくということによろしいでしょうか。

【事務局】

はい。

【会長】

給食費改定額を議論する前に、説明資料にありましたとおり給食費無償化を進めている自治体が増えております。そのため、給食費の無償化についてお伺いしたいと思います。中学校全員給食の開始を前提として、給食費無償化を行った場合は町田市ではいくらかい費用がかかるか教えていただけますでしょうか。

【事務局】

現在の小学校中学年245円の給食費で、小中学校全員を無償化とした場合には、小学校では年間約11億円かかります。中学校では約6億円、合計で約17億円になるのではないかと見込んでおります。

【会長】

ありがとうございます。例えば、資料3の新宿区、練馬区、狛江市のように、所謂多子世帯の無償化、具体的には第二子以降の無償化、第三子以降の無償化にした場合、町田市ではどれくらいの金額になるでしょうか。

【事務局】

こちらでも現在の給食費で算出し、かつ町田市立小中学校に第一子が在籍している状態で、第二子以降も町田市立小中学校に通っていることを条件とした場合には、約3億円を見込んでおります。同様の条件で第三子以降を無償化した場合、約5千万円を見込んでおります。

【会長】

ありがとうございます。全員無償化で約17億円、多子世帯の無償化でもそれなりの費用がかかることが今の説明で分かりました。資料3に記載がある東京都による無償化の支援が行われた場合は市としてどのくらいの財政負担が必要になるのでしょうか。

【事務局】

東京都の支援の内容ですが、資料にも記載したとおり制度の内容が明らかになっていない状況です。一部報道では、東京都が2分の1の補助をするのではないかと報道されておりましたので、仮に2分の1の補助が行われたとして計算すると、約17億円の半分で約8億5千万円が市が必要とする経費の額になります。

【会長】

町田市としては、東京都の支援制度を活用する予定はございますか。

【事務局】

東京都の支援制度については、東京都知事の発言が広く報道されている状況で、期待されている保護者の方も多くいらっしゃると思います。現段階では制度詳細が明らかにされていない状況ですので、まずは情報収集を図りたいと考えております。制度詳細が明らかになった段階で、子どもたちのためになるように町田市の対応を検討していきたいと考えております。

【会長】

ありがとうございます。東京都の補助の活用を検討するということ、そして東京都の補助があつたとしても約8億5千万円と市の負担はそれなりになることが分かりました。

それでは、給食費改定の議論に移りたいと思います。事務局から給食費改定額について先ほど新たな提案がありました。給食費改定を前提としてはしておりませんが、私から標準献立を拝見して食育の内容について明確になっていない部分があるのではないかとということで、食育の観点から標準献立の見直しをしていただきたいとお伝えしました。それを踏まえて食育の観点から様々な修正を行っていただきありがとうございました。食育の観点から修正していただいて、結果的に給食費が下がったので、とても良い検討をしていただいたと思っております。食育の充実プラス給食費が下がったということで、ご検討いただきありがとうございました。

委員の皆さまから今回の提案についてご意見がありましたらお伺いしたいと思います。

【金田委員】

資料2の10ページの「学校給食の必要経費に対して、国の補助や市の補助を充てている額はいくらか」について、国の補助や市の補助の額について順位1のところは41円で町田市は19円とかなり差があります。この差が何か教えていただけますか。

【事務局】

給食費改定について議論させていただいているところですが、そもそも給食費の算出方法が自治体によってかなり異なっている状況です。消費者物価指数が上がっている分を給食費にかけて算出しているところもございますし、支出の費用を算出してその分を経費計上するということもございます。このような違いによって、自治体による差が出ていると思います。

【金田委員】

国の補助は、どの自治体も同じ金額が出ているのでしょうか。市の補助は、自治体の状況によって出せる金額に限りがあるかもしれませんが、国の補助は自治体ごとに違ってくるのでしょうか。

【事務局】

国の補助は、あくまでも市の要求に基づいて支給されています。国が一律で支給しているわけではなく、給食費の上昇分を保護者に負担を求めないためにはこのくらいの金額が必要ですというように要求したものに対して補助を受けているので、自治体によって金額の差が出たと思っております。

【金田委員】

町田市が頑張ればもう少し補助が入るのでしょうか。

【事務局】

不必要な要求はしてはいけないので、財政当局と調整しながら要求を行っている状況です。そういった面も含めて自治体によって異なっていると思います。

【金田委員】

単純に2倍というのが不思議だなと思いました。以上です。

【会長】

そのほかにご意見はございますか。

【石黒委員】

先ほども少し話に出ていた消費者物価指数について調べてみたが、総務省統計局のデータでは2020年度を100としたら2023年10月で116.3になっています。小学校中学年の給食費である245円に1.163をかけると289.94円になります。そうすると、少し足りないかと思います。献立を立てたり、かかった金額を計算したりしているとそのくらいかかるのかなという感じはしています。消費者物価指数は参考にされたと思いますがいかがでしょうか。

【事務局】

それは全国平均でしょうか。

【石黒委員】

食料全体の全国平均です。

【事務局】

消費者物価指数は確認しています。食料は10月の段階では116ですが、現在の東京都区部のデータだと114.9で若干数値が落ちています。食料品は気候状況によっても変わってきて、夏頃は野菜が高かったのが緩和してきているなど、そのようなデータを踏まえて、これまで町田市が購入してきた実績値や、地場農産物の方が安く購入でき、地場農産物の購入量が1学期時点で昨年度は10%であったが今年度は上位10品目で17%まで伸びていることなども反映した上で、この金額が妥当だと判断しました。

【石黒委員】

ありがとうございます。今後も、温暖化の影響や天候不順、鳥インフルエンザ、物価上昇などがあるかと思うと、次の給食費改定が何年後になるか分からないが、どのくらい物価が上がるか分からないなかであまりギリギリだと、献立を立てるのに知恵を絞ってやらなければならないと思いました。以上です。

【会長】

ご意見ありがとうございました。今の石黒委員の意見に関して何かございますか。

【事務局】

これから物価に関してどうなるかは注視して、1年ごとに価格の適正性を確認していく必要があると思っております。今回は前回の改定から間が空いてしまいましたが、今後は毎年価格を確認しながら定期的に協議会に諮っていきたいと考えております。

【会長】

ありがとうございました。今回は久しぶりの改定でしたが、今後は何年も間が空かずに見直すということで良いでしょうか。石黒委員よろしいでしょうか。

【石黒委員】

はい。

【会長】

進藤委員はいかがでしょうか。

【進藤委員】

来年度275円に決まったとして、また補助の請求はできるのでしょうか。今年度は補助があるが、給食費が275円に上がったとしても264円との差が11円しかないので、本校の食数だと1日4千円から5千円使える費用が増える計算になります。それでは半分のみかんを1個に増やすこともできない金額です。今後も補助があるとありがたいが、どうでしょうか。

【事務局】

今回給食費を見直して、すぐに補助を上乗せすることは中々難しいと考えております。

【進藤委員】

現場としてはあるとありがたいです。

【会長】

今回値上げをすると、補助の申請はしにくくなるということなののでしょうか。

【事務局】

そのとおりです。今回275円で了解をいただいた場合には、基本的にはその金額でやらせていただくことになると思います。

【会長】

分かりました。

【金田委員】

値上げすると国の補助は申請できないのでしょうか。

【事務局】

使い方によると思います。これまでは245円に19円上乗せをしていたが、多摩26市の中でも町田でいう245円を動かさずに19円保護者負担を減らすという使い方をしている自治体があります。今年度は新型コロナウイルスの交付金を活用していますが、来年度以降この仕組みがあるかどうか、今回経済対策でも給食費の支援が出ているが、使い方がどうなるかは今後国が示してくると思いますので国の補助制度を見ながら検討していく必要があると思います。

【会長】

ありがとうございました。小学校の先生として貝原先生は何かございますか。

【貝原委員】

今の話ですと、国の補助は出るか出ないか分からないということによろしいのでしょうか。

【事務局】

現在保護者の方にご負担いただいている245円を、例えば275円に値上げしたときに値上げ分を保護者の方に負担をお願いするのではなくて、国の補助を活用して負担を求めないといったことには補助金は活用できる形になります。食材費が275円で、それ以上に国の補助を充てて給食を実施させようといったことは中々難しいのかなと思います。

【貝原委員】

そうすると国の補助を目当てにというのが出来なくなるのでしょうか。国の補助を予め貰えるのであれば貰った方が良いのではないかと思ったがそうではないのでしょうか。

【事務局】

保護者の方の負担軽減を図る意味で補助金を使用することは恐らくできると思うが、それ以上に何かの理由で国に対して要求していくことは中々難しいかなというところがございます。

【貝原委員】

町田の経済、財政事情から見ると、全額補助とか他区市のような状況というのは難しいのかということを思っています。受益者負担ということを考えると、当然値上げも仕方ないのかなということは私も考えています。ただ、国の補助という面でいただけるものがあるのであればそこまで負担を保護者に求めなくても、できれば補助をいただいた方が保護者の人はありがたいのではないかなと感じています。

【事務局】

可能な限り、国の補助金の制度は活用していきたいと思っています。今年度の補助金については詳細が出ていますが、来年度の国の補助金については詳細が出てない状況です。今年度の補助金としては重点交付金がございますので、来年度そのようなものが継続されるのであれば、積極的に活用していきたいと思っております。

【貝原委員】

栄養士からも話を聞いていますが、本当にお金がもう苦しいと、それでも何とかしているところなんです。今日はたまたまクリスマス前なので豪勢にフライドチキンが出ていました。普段貯めておいたお金をこういうところに使ったださっているのだと思いますが、そのように工夫されているということを感じました。以上です。

【会長】

ありがとうございます。大川先生いかがでしょうか。

【大川委員】

できるだけ保護者の負担は無い方が良いとは思っております。補助が使えれば使っているだけありがたいとも思っているのですが、それとは別に、実際日々のやりくりについて栄養士の話聞いてみると本当にどこを見ても去年と比べて全部上がっているということを話していただき、やりくりが大変だというのは見えております。子供たちもすごく給食が好きでおかわりが欲しいというクラスが沢山あって、栄養士がよく食べるクラスには残った分を配りに行っているのですが、本当に子どもたちは楽しみにしています。給食自体が先細りになると子どもたちの食生活もそうだし食育もそうですが決してプラスにはならないので、現状のレベルを維持していけるようにしていただきたいと思います。後は、本当に今お金が足りないのも金額的に占める割合が大きい牛乳をやめるしかない、それこそヤクルトみたいなもの1本とかというくらいにしないと立ち行かない、実質的にお金がもう足りないのは分かっているんで、できるだけ保護者負担は少なくしながら今のステージを維持していける金額はどうしても必要だというふうに思っております。

【会長】

ありがとうございました。藤田委員どうでしょうか。

【藤田委員】

中学校の給食はまだランチボックス形式ですが、今のランチボックス形式でも本当に保護者は助かっていると思います。本校は給食を頼んでいる生徒は少ないですが、全員給食になると保護者にとってもありがたいですし、子どもにとっても喜ぶだろうなということは目に見えておりますので、そういった中での今の事務局の皆さんのお話を伺うと補助金をなるべく活用するだとか色々なことを生徒・保護者のことを考えてやっていただいているなというのを私は感じるんで、そういう方向にいくことを願っているという感じです。以上です。

【会長】

ありがとうございました。それでは、福住委員いかがでしょうか。

【福住委員】

保護者の負担を下げようとしていただいているのがよく分かりました。今の給食費はすごく高いというわけでもないし、本当に困っている家庭は町田市から支援金を受ける制度もあるので、給食費を払っている家庭は今の給食費にはそこまで不満はないと思います。とにかく内容を減らさないようにしてくれれば、少し値上げされても困らないのではないかと思います。

【会長】

ありがとうございます。木村委員いかがでしょうか。

【木村委員】

私も福住委員と同じ考えで、小学校の給食費はこれでいいと思います。やはり内容が充実したままでいてほしいので、補助金はなるべく使用していただきたいです。中学校も全員給食になるということで期待していますが、これで中学生がもりもり食べる人もいれば、逆に食が細くなる子もいて、一律にしなければならないという問題はあるのですがどうなるのかなというのが気になっています。

【会長】

ありがとうございます。中学校も全員給食になるなかで、きちんと食べるということも含めて食育がなされていくということでもよろしいでしょうか。

【事務局】

はい。

【木村委員】

ありがとうございます。

【会長】

堀切委員いかがでしょうか。

【堀切委員】

補助について、全国の子どもたちみんなが公平でないといけないのではないかと思います。沢山補助を受けている自治体と町田の差がなるべく開かないように、今も努力をしていますが、今後も努力をしていただけたらありがたいと思います。質問ですが、国の補助や市の補助について何か決まりがあるか教えていただきたいです。

【事務局】

今年度行っている19円の上乗せは、全額国の交付金を使っております。

【堀切委員】

10ページ問7のところは他の市も全て国の負担ということで合っておりますでしょうか。

【事務局】

26市の調査結果は全て国の負担です。

【堀切委員】

それであれば公平であるべきかと思います。保護者の負担についても、家庭によっては給食費を支払うのが大変なご家庭もあるので、やはりなるべく補助をいただけるようにしてい

ただければありがたいと思います。

【事務局】

一点補足させていただくと、今年度使用している国の交付金は新型コロナウイルスの重点支援交付金です。交付金が使用できる項目は給食費だけでなく様々なメニューがあり、それを市としてどの事業に充てるかは市の裁量で決めることが出来ます。町田市は消費者物価指数をもとに19円を導き出しているが、元々の給食費金額の算定の仕方や直近の給食費改定がいつ行われているが異なることと、市の裁量でどのくらい給食費に充てるかが異なるのでこのような結果になっていることをご理解いただければと思います。

【会長】

ありがとうございました。野村委員何かございますか。

【野村委員】

小学校も中学校も子どもたちが健康に過ごせるように、栄養士さんもすごく栄養のことを考えて少ない予算の中で献立を日々考えてくださっています。学校現場としてはなるべく食材を無駄にせず空っぽにできるように、子供たちがたくさん食べられるように先生たちも日々働きかけています。無償化が叫ばれている中で、値上げしても保護者の方が負担しないように補助金をいただければ一番良いのかなと思います。色々と見てかなり難しいことだとは思いますが、子どもたちの9年間の体の健康を考えると、充実した給食、それから保護者にとっても負担のないところを今協議しているので、そうなってほしいなと切に思います。以上です。

【会長】

ありがとうございました。柳田先生いかがでしょうか。

【柳田委員】

ご説明ありがとうございました。昔、衣食足りて礼節を知るという言葉があったように、食が子どもの人間形成に与える影響は甚大なものがあると思います。私も半世紀以上前に給食をいただいていた、何を食べたかを未だに覚えています。やはり子どもにとって給食の占めるウエイトはとても大きいのだろうなと思います。そうすると、補助金にせよ負担にせよ何にせよやはりお金をどのように使うか考えた時に、子どもへの先行投資ではないですが人間作りということを考えると、どのようにお金を使ったらいいかが少しずつ見えてくるのかなと思います。当然、事務局はじめ多くの方々がそのような視点でご努力されているのは重々承知していますが、改めてそのような視点を継続していただいて、適正な価格で子どもにとって本当に健全育成に値するものをご提供いただければなと思っております。教育現場は必ず協力しますのでぜひよろしくお願いいたします。

【会長】

委員のみなさまから貴重なご意見をいただきありがとうございました。ご意見を踏まえて次の協議会に繋げていきたいと思っておりますが、最後にこれだけは言っておきたいというご意見はございますか。

【木村委員】

大川先生が給食費の中で牛乳の占める割合が高いとおっしゃっていましたが、その話は初めて聞きました。ヤクルトなどの乳酸菌飲料を増やしたら、その分食材に充てたり、メニューを増やしたり出来るのかなと思いますが、やはり駄目なのでしょうか。実際に給食センターで働いていた時に、牛乳を残す子が結構いて、それを処分していた経験があるのでそのように思いました。

【進藤委員】

学校給食法で給食には牛乳を付けると決まっています。牛乳代についても国から補助を受けていて今の金額が決まっております。

【石黒委員】

牛乳に入っているカルシウム量と同じだけ摂れる代替りの食材がありません。ヤクルトとかもたまに良いが、月平均で摂取すべきカルシウム量があるので、やはり子どもたちにとって牛乳は必要な食材だということは日々の献立を立てていて思います。毎日牛乳を飲まない人には返金の対応もあるので、現状のままになってしまいますがよろしいでしょうか。

【会長】

先ほど標準献立も何回か乳酸菌飲料に置き換えていただいていると説明があったと思います。

【木村委員】

見る限り牛乳がほとんどで乳酸菌飲料は2回程度でした。

【会長】

学校給食の牛乳はとても重要な食品で、土日には児童のカルシウム摂取量がガクッと減るのが調査でも分かっています。それだけ学校給食の牛乳の役割はとても大きいと私たちも認識しておりますので、アレルギーの場合は当然飲めないが、できればお子様には飲んでいただきたいです。飲んでいただけるように保護者の皆さまにもサポートをお願いしたいと思います。

【大川委員】

牛乳は飲む子の方が多くて、とりわけ夏場は取り合いになるほど子どもは飲んでいきます。

子どもたちは牛乳を飲んでいるが、それでも牛乳を減らさなければならないと思うくらい給食費が苦しいという意図で発言しました。牛乳の値上げ幅が4円とかかなり大きくなっています。

【会長】

木村委員は実体験として学校給食の現場で働いていらっしゃるときに牛乳の残りが多かったということでご心配いただいたというところでしょうか。

【木村委員】

はい。

【金田委員】

これから先も気候変動で物価は上がっていくと思います。地場産の野菜に関してはもしかしたら市場よりも安いかもしれないが、どう考えても上がっていくような気がします。今回275円に値上げしても現場はそれでもきついのですよね。これからまた物価が上がるかもしれないなかで、また給食費が苦しくてこの金額ではやっていけないというときや、給食の内容が維持できないとなった場合には、値上げせざるを得ないと思います。その場合に、それこそ東京都が給食費の半分以上を賄うとなったときには、給食費を上げるということは考えられますか。要するに、東京都が補助を半分出すとしたら保護者の負担は増えなくなるので、それにあわせて給食費の原材料の価格を今の275円から、補助を開始する時期にあわせて上げることは検討されますか。その時でないと検討ができないような気がします。

【事務局】

先ほど申し上げたとおり、1年ごとに物価の推移と実績を確認し、現場の栄養士や学校の意見も聞きながら検証していかなければいけないと思っております。給食費は2014年の改定から10年近く据え置きになっていましたが、今後は小刻みに検証して、協議会の中で改定の議論をしていかなければならないと思っております。

【会長】

ありがとうございました。本日の皆さまからのご意見を踏まえて次回また検討していきたいと思っております。事務局から何かございますか。

【事務局】

大変貴重なご意見をありがとうございました。本日いただきましたご意見を参考に、改めて市で資料を整理して次回提示させていただきます。

【会長】

それでは事務局に進行をお返しします。

【事務局】

山田会長ありがとうございました。次回は次第に記載したとおり、2024年1月31日14時から開催させていただく予定です。会場は市役所4階の政策会議室です。議題は引き続き「給食費について」を予定しております。委員の皆さまには改めてご案内をさせていただきます。それでは第8回町田市学校給食問題協議会を閉会いたします。本日は長時間にわたりありがとうございました。